

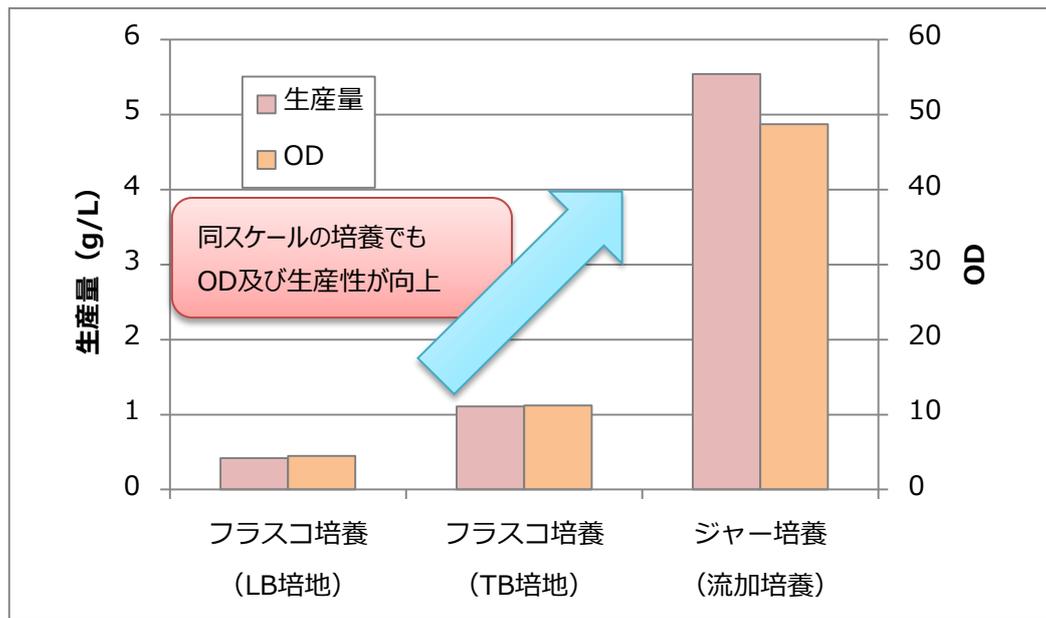
＜大腸菌流加培養＞

大腸菌によるタンパク質生産に関して、通常のフラスコ培養とジャーファーマンターによる流加培養で生産性を比較しました。

【試験；タンパク質発現試験】

あるタンパク質をコードする発現ベクターを大腸菌株に導入、ジャーファーマンターを用いた流加培養でタンパク質発現試験を行いました。同時に2種の培地（LB 培地、TB 培地）で通常の培養（フラスコ培養）を行い、流加培養の場合とタンパク質の生産性を比較しました。

その結果、流加培養ではフラスコ培養（LB 培地）で培養したときと比べて 13 倍、フラスコ培養(TB 培地)で培養したときと比べて、培養スケール当たりの生産性が 5 倍程度高くなりました。OD と生産量の比率がほぼ同じことから、菌体量の増加がそのままタンパク質の生産量の向上に繋がっていると思われます。



各培養方法によるタンパク質生産性

タンパク質受託発現サービス情報は[こちら](#)